

すぽっとライト

マイクを持って街へ
NO. 21

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今回は、高松市で障害者のみなさんから相談におこたえし、支援をしている「障害者生活支援センターたかまつ」の相談支援専門員 森川麻理さんに支援センターの事業内容やバリアフリーに関するお話をお伺いしました。



障害者生活支援センターたかまつ
相談支援専門員 森川 麻理さん

○障害者生活支援センターたかまつについて教えてください

障害者生活支援センターたかまつは、地域にお住まいの障害者のみなさんやそのご家族の方たちのさまざまな相談におこたえし、支援していくための窓口として平成12年11月に設立されました。

当支援センターは、かがわ総合リハビリテーションセンターを母体とし、高松市・三木町・直島町の1市2町の委託を受けた障害者自立支援法に基づく委託相談支援事業所として、この地域にお住まいの方を対象に支援を行っています。

当初は、身体障害者の方を対象としていましたが、自立支援法が施行されてからは障害の壁を取り払うということで三障害（身体、知的、精神）全ての方に対応いたします。

○どのような支援をされているのですか？

まず、在宅福祉サービスの利用援助として、自宅（在宅）で生活していく中で「あれが出来ない」「これが足りない」「これに困っている」等の相談に対して、どういう支援がマッチするかとか、どういうサービスが受けられるのか、ということのコーディネート（直接サービスを行うのではなくサービスや制度を組み合わせる計画・調整をする）を行うのが私たちの仕事です。また、いろんな情報提供をすることも大事な役割です。

そのほかに、権利擁護のための相談や障害のある当事者相談員（ピアカウンセラー）が悩みを聞き、話し合っって問題を解決したり必要な情報を提供するピアカウンセリン

グ、相談内容に応じて医療機関、保健センター等他の専門機関の紹介等も行っています。また、障害者の支援のための講演会や講座を年2回程度開催しています。

○どのような相談が多いのですか？

相談内容は様々で生活に関すること、住宅に関すること、外出に関すること等、いろいろな相談を受けています。対象者はすべての障害者とそのご家族の方々です。電話、メール、来所、訪問といろんな形での相談を4人の相談員で受けています。



相談支援専門員のみなさん

○相談員になられたきっかけは？

私は元々支援センターの母体である、かがわ総合リハビリテーションセンター内の身体障害者の更生施設（現在は成人支援施設）の職員だったのですが、支援センターのお仕事の話をしていただき相談員となりました。今年で5年目になります。

施設退所後の生活支援を支援センターが担うこともあるので、まるっきり違う仕事というわけではなく、密接につながっています。

○支援センターまではどのように来られる方が多いのですか？

支援センターへの公共交通機関は、約1時間に1本程度のバスしかなく（養護学校バス停から300m 約10分）不便であるため自動車での来所が多くなっています。でもこちらに来る路線バスはノンステップバスが多いので助かっています。運転手さんにも慣れた方が多く、親切に対応していただいています。

またリハビリテーションセンターの成人支援施設では、障害のある方がこの路線バスや電車を利用して美術館やショッピングセンター等へ出かけて行く、公共交通機関利用訓練や外出訓練を行っています。

○バリアフリーについてどのように感じていますか？

何年前に施設の旅行で車いす利用者の方達と大阪に行く機会があったんですが、駅などで駅員さんが車いす利用者を見つけると直ぐに駆け寄ってきて介助をしてくれてたんです。すごく良いサービスを行っていると思いました。お客様に対してのそういう気遣いがあると障害者の方も気持ちよく利用できると思いました。

高松のバスの運転手さんに気遣いをしてもらえる方が多くなってきたと思います。高

松でもそういう教育がされてきたのかなあとと思います。

障害のある方が外出したい時の「移動支援」のサービスの相談もよくあるんですが、どうしても車（介護タクシー）を所有している介護事業者さんを希望することがほとんどで、電車・バスで外出する人は本当に少ないです。

○それはどうしてでしょうか？

小さいときから車に乗り慣れており、また車の方が便利だから公共交通機関を利用する機会が無かったんだろうと思います。小さいときから電車やバスを使うような習慣を持っていれば、大きくなって普通に電車やバスを利用すると思います。ただ、利用しようと思っても様々な理由で利用できない場合もあることは確かです。



障害者の方は車で移動することが多いことから、「あまり町中で障害者を見かけない」という声をよく聞きます。だから、見ないし会わないし接する機会がありません。そのため、対応する機会もないわけですから多くの人たちは障害のある方にどういふふうに接して良いか分からないのだと思います。

障害者のことを知ってもらうには障害者の人もどんどん出て行かなければいけないと思うし、お互いが歩み寄る気持ちが大切なんだと思います。

○行政に対して意見・要望はありますか？

物理的にすべてのバリアフリーはなかなか難しいと思いますが「心のバリアフリー」でカバーして頂ければ障害者の人もより外出しやすくなると思います。そのためには、一般の人も障害のある人のためにどういふ手助けをしたら良いのかということ普段の生活の中でいっぱい体験してほしいと思います。障害者の方は街中では一人でなかなか行動が出来ない場合があると思いますが、勇気を持って周囲の人に助けを求めてみるのが大切だと思います。そしてその行為が双方にとって「あたりまえのこと」になってくれればと思います。



センター外観

「障害者生活支援センターたかまつ」のホームページはこちら

→ <http://ww81.tiki.ne.jp/~shogai-shien/takamatsu/>

【場 所】



インタビュー実施日：H21. 7. 14（火） 聞き手：今西、長谷部